

# A study of the effects of saliva stimulation by nizatidine on dry mouth symptoms of primary biliary cirrhosis

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2014-02-20 キーワード: 作成者: 菊池, 哲 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001629">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001629</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2291 号

## A Study of Effects of Nizatidine's Saliva Stimulation on Dry Mouth Symptoms of Primary Biliary Cirrhosis (PBC)

(原発性胆汁性肝硬変 (PBC) の口腔内乾燥症状に対しニザチジンの唾液分泌促進能が及ぼす効果に関する検討)

菊池 哲 (きくち てつ)

博士 (医学)

### 論文内容の要旨

PBC(原発性胆汁性肝硬変)の口腔内症状に対して、唾液分泌促進作用のあるニザチジンを投与し、その効果を明らかにする事を目的として以下の検討を行った。2010年2月までに当院にてPBCと診断確定された73症例のうち、ニザチジン投与に関して十分説明を行ったうえで同意が得られた27症例(男性4症例、女性23症例)を対象とした。ニザチジン内服は1回150mgを1日2回、朝食後と夕食後に投与した。唾液分泌量の推移はガムテストにて評価を行った。口腔内乾燥症状については、口腔内乾燥感と食物摂取困難感については問診(VAS法)にて検討した。栄養状態と肝予備能の変化については治療前後で比較した。結果は、ニザチジンの投与前のガムテストにて唾液分泌低下の基準である10ml以下が、48.1%に認められた。唾液分泌量は、投与前 $10.5 \pm 6.8$ mlであったが、6ヵ月後は $10.9 \pm 6.0$ mlで、12ヵ月後には $10.6 \pm 4.9$ ml、24ヵ月後は $11.8 \pm 6.8$ mlと全体としては緩やかな増加傾向であった。また、10ml以上の割合も、投与開始6ヵ月後の段階では45.8%と大きな変化は認めなかったが、12ヵ月後になると64.3%と明らかな増加が認められた。口腔内乾燥感と食事摂取困難感についてVAS法を用いて自覚症状の強さを検討すると、口腔内乾燥感はニザチジン投与開始後1ヵ月という早期の段階において、ほぼ全ての症例でVASの改善が認められた。栄養状態や肝予備能、PBC長期予後にどのような影響があるのか検討を行ったが、投与前後のコリンエステラーゼとアルブミン、Child-Pughスコアの値は観察期間を通じて有意な改善は認められず、また、ニザチジン非投与群とも比較を行ったが、有意差は認められなかった。

PBCの口腔内乾燥症状に対してニザチジンを投与すると、唾液分泌が増加する傾向が認められ、口腔内乾燥症状が改善することが確認された。しかし、それに伴ってPBC患者の栄養状態や長期予後の改善が認められるかは明らかにはならなかった。